

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の4年目(延長))

1. 研究課題

前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会

Studies on the Cultures and Societies in Premodern Inner Asia and its Adjacent Areas

2. 研究代表者氏名

稲葉穰

Inaba, Minoru

3. 研究期間

2019年4月-2023年3月(4年目(延長))

4. 研究目的

いわゆる古代文明発祥の地であり、伝統的に独自の歴史文化を形成してきたとみなされる西アジア、南アジア、東アジアは地理的には海上と内陸アジア(中央アジア、中央ユーラシアとほぼ同義で用いる)の陸上ルートを通じて様々な形で接触してきた。その接触の場を提供し、時にこれら大陸縁辺の世界に多大な影響をおよぼした内陸アジア世界もまたそれらの地域と同等の一つの文化世界、歴史世界であるかのように措定されてきたが、そのイメージは砂漠とステップと遊牧部族が支配的な空間、というものであった。しかし20世紀末にソヴィエト連邦が崩壊し、バミール以西の内陸アジアが世界の研究者に対して門戸を開き、また東トルキスタンにおいて中国の非常に活発な研究が進んだことにより、当該地域を研究するための材料や視点は漸次増大してきている。このような状況を踏まえ、今後進められねばならないのは、上述のようにステレオタイプ的に理解されてきた内陸アジア内部の地理的な diversity や、社会結合のあり方、都市に関するより詳細な研究である。本研究班は古代から近代に到る内陸アジアとその隣接地域に関する様々な社会研究、文化研究のケーススタディを積み重ねることで、多様な内陸アジア像を描き出し、ステレオタイプ的な理解の克服を目指す。

West, South, and East Asia, traditionally regarded as "civilizational centers", have been in contact with each other through maritime and inland routes. Inner Asia (almost synonymous with Central Asia/ Central Eurasia), which served as a contact zone for these areas and at times greatly influenced them, has also been perceived as an independent historico-cultural world. Even today, the common image of Inner Asia is one of deserts and steppes where monolithic, nomadic tribal societies and cultures prevail. However, starting with the last two decades of the 20th century, materials for further researching the history of the area in

question have started to become increasingly available. Based on such materials, the issue of the diversity of societies and cultures within Inner Asia has been attracting more and more attention. The purpose of our research project is to shed light on the history and culture of Inner Asia through case studies of its societies and cultural interactions, etc. from antiquity to the early modern period.

5. 本年度の研究実施状況

一年間の延長期間を利用し、ペルシア語地方史『ヘラート史』の訳注の再検討を進めた。これは来年度中に公開予定の日本語訳注の作成のための作業でもあるが、再度の会読の効果として以前は不明であった韻文の解釈が可能になり、新たな関連情報が発見されるなど、翻訳、注釈ともに精度をあげることができた。また、12月にはほぼ3年ぶりに海外からの講師アーリフ・ナウシャヒー氏（元ゴードン・カレッジ教授）を迎え、ナクシュバンディー教団の高名なシャイフ、ホージャ・アフラルの伝記史料の校訂とそれにまつわる諸問題についての講演をハイブリッド形式で開催し、活発な議論を行うことができた。

6. 本年度の研究実施内容

- 2022-04-08 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史会読 発表者 稲葉穰
- 2022-04-22 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史会読 発表者 稲葉穰
発表者 杉山雅樹 京都外国語大学
- 2022-05-13 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史会読 発表者 杉山雅樹
京都外国語大学
- 2022-05-27 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 研究報告 発表者 小倉智史 東京
外国語大学 2020年2月パキスタン調査報告 発表者 宮本亮一 東京大学アジア研究図書館
バクトリア語史料と中央アジア史
- 2022-06-10 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他
- 2022-07-08 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他
- 2022-10-14 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他
- 2022-11-11 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 研究報告 発表者 川本正知 奈良
大学 ハラム文書研究とエルサレム訪問（2022年9月）
- 2022-11-25 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他
- 2022-12-09 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 特別講演 発表者 Arif Naushahi
ゴードン・カレッジ ホージャ・ウバイドゥッラー・アフラルの伝記

2023-01-27 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他

2023-02-10 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他

2023-02-24 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他

2023-03-10 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他

2023-03-24 前近代内陸アジアと隣接地域の社会と文化 ヘラート史訳文の再検討 発表者
稲葉穰、他

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

稲葉穰、船山徹、稲本泰生、中西竜也、檜山智美、Erika Forte、慶昭蓉

学内

帯谷知可(東南アジア地域研究研究所)、角田哲朗(文学研究科)、大津谷馨(文学研究科)、今
松泰(アジアアフリカ地域研究研究科)、磯貝健一(文学研究科)、井谷鋼造(京都大学)、吉田
豊(京都大学)

学外

宮本亮一(東京大学アジア研究図書館)、和田郁子(岡山大学社会文化科学研究科)、真下裕之
(神戸大学人文学研究科)、伊藤隆郎(神戸大学人文学研究科)、影山悦子(名古屋大学人文学
研究科)、小倉智史(東京外国語大学)、内記理(愛知県立大学)、川本正知(奈良大学文学部)、
入澤崇(龍谷大学)、岩井俊平(龍谷大学龍谷ミュージアム)、杉山雅樹(京都外国語大学)、小
野浩(京都橘大学)、森山央(同志社大学神学部)、井上陽(相愛大学)、上枝いづみ(龍谷大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(内女性)	(内女性)	(内女性)	(内女性)		(内女性)	(内女性)	(内女性)	(内女性)
人文研所属 (内女性)		2					30				
京大内 (人文研を除く) (内女性)		2				1	30				15
国立大学 (内女性)		3	1	1			50	1	1		
公立大学 (内女性)		(1)		(1)			(2)		(1)		
私立大学 (内女性)		3		1			50		1		
大学共同利用機関法人 (内女性)		(1)		(1)			(1)		(1)		
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)											
民間機関 (内女性)											
外国機関 (内女性)											
その他 ※ (内女性)											
計	0	10	1	2	0	1	160	1	2	0	15
		(2)	(0)	(2)	(0)	(0)	(3)	(0)	(2)	(0)	(0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	7		5	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1			
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	3		3	
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名 (必須)	掲載論文数 (必須)	掲載年月日 (必須)	論文名 (必須)	発表者名 (必須)
1	The history and culture of Iran and Central Asia	13	R4.4	Central Asia in the mid-eighth century	Inaba, Minoru
2	The World of the Ancient Silk Road	32	R4.9	Kabul and Regional Center of Eastern Afghanistan in the Historical Perspective	Inaba, Minoru
3	Bulletin of the Asia Institute 31		印刷中	Letters from Kadagstān	Miyamoto, Ryoichi
4	The History and Culture of Iran and Central Asia	13	R4.4	Xian temples of the Sogdian colonies in China: A study based on archaeological material	Kageyama, Etsuko
5	仏教東漸の道	16	R5.3	ソグドのペンジケント遺跡宮殿址で出土した壁画について	影山悦子
6	敦煌研究 194	13	R4.10	敦煌莫高窟第 285 窟西壁壁画中的星宿图像与石窟整体的构想	檜山智美
7	西域研究 2022.2	9	R4.4	唐代碛西"税粮"制度钩沉	慶昭蓉・榮新江
8	敦煌吐魯番研究 21	32	R4.9	和田出土唐貞元年間傑謝税糧及相關文書考釋	慶昭蓉・榮新江
9	西域文史 16	19	R4.11	和田出土大曆建中年間税糧相關文書考釋	慶昭蓉・榮新江
10	内陸アジア言語の研究 37	7	R4.11	碛西税糧淵源考	慶昭蓉
11	内陸アジア言語の研究 37	7	R4.11	トゥムシュク語の穀物を表す名詞 (I) - Tumsh.gorsa-/gaursa- について	荻原裕敏・慶昭蓉

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
1	The History and Culture of Iran and Central Asia: from the Pre-Islamic to the Islamic Period	D. G. Tor, Minoru Inaba	R4.4	University of Notre Dame Press

12. 博士学位を取得した学生の数(人)

	人数
博士学位を取得した学生の数	0

13. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

なし

15. 次年度の経費

なし

16. 研究成果公表計画および今後の展開等

『ヘラート史』の訳注を、電子テキスト(無料)の形式で発表する予定で作業を進めている。これが公表されれば同史料についての初めての外国語訳注となり、従来ほとんど知られていない重要史料に簡便に接することができるようになる。